

15 水・電気・ガスのない生活

地震の後、人々はどのような生活をしてきたのか考えよう。



地震のため、ほとんどのところで、水道や電気が使えなくなりました。都市ガスも止まりました。たちまち生活がたいへんになりました。

「寒いよ。」ストーブは動きません。「のどがかわいた。」水道をひねっても水は出ません。「おなかがすいた。」ごはんをたたくことも、あたたかいみそしるを作ることもできませんでした。水洗トイレもすぐに使えなくなりました。みんなで、少しの食べ物やのみ物を分け合って、体をよせ合ってすごしました。

水道が使えない間は、手をあらうことや、お風呂に入ることもできませんでした。きゅう水車が、水をとどけてくれたときは、たくさんの人たちが列を作って、長い間ならんで水をもらいました。

みんな、がまんや工夫をして生活をしなければなりませんでした。



でんきこうじがいしゃかたはなし
電気工事会社の方の話

でんきつか
電気が使えないと、みなさんがこまります。はや
うさせようとこうじかんけいしゃみんなでがんばりました。東日本
だいしんさい
大震災のような大きな災がいの時は、でんきとお
じかん
がかかることがあります。そのようなとき、どうしたら
いか、みなさんもふだんからかんがえておいてください。



すいどうでんきつか
水道や電気を使わないで、せいかつ
生活できるかな。
みんなでかんがえてみよう。



すいどうつか 水道が使えないとこまること	どのようにしたらよいか
〈きれい〉て 手をあらえない	〈きれい〉ウェットティッシュを つか 使って手をふく
でんきつか 電気が使えないとこまること	どのようにしたらよいか



ふりかえり
